

行政視察報告書

平成30年7月13日

視察委員会名	教育民生委員会		
報告書作成者	副委員長 森 美和子		
出席者氏名	委員長	副委員長	
	尾崎 邦洋	森 美和子	
	委員 前田 稔	中村 嘉孝	
	福沢 美由紀	高島 真	
欠席者氏名	なし		
所管課職員氏名	健康福祉部長 井分 信次	随員職員氏名	議会事務局 大川 真梨子

視察日	視察先	視察目的
5月22日	岡山県津山市	・「地域包括ケア」の取り組み内容や、「地域包括ケアシステム」を構築するにあたっての課題について
5月23日	兵庫県小野市	・同上

教育民生委員会では「地域包括ケアシステムについて」調査研究を行っている。そこで、先進地である岡山県津山市、兵庫県小野市の取り組み内容や課題について、5月22日、23日に視察した。

●岡山県津山市

◆現状と取り組み

津山市の高齢化率は29.5%、高齢化や人口減少は厳しい状態であり、地域包括支援センターは、当初から社会福祉協議会に委託されている。地域包括ケアの取り組みでは、個別地域ケア会議を開催し、多職種が介してサービスの検討がなされている。プラン提供者のスキルアップになるような取り組みでもあり、良いプランを作り上げる会議になっている。また、生活支援サポーター事業では、市内150人の登録サポーターが社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを通して、支えあい活動を行っており、利用料金は200円～300円となっている。

地域包括支援センターでは、地域に密着した柔軟なサービスや支援に関する情報を掲載した「ごんごノート」を作成し、民生委員・ケアマネジャー・センター職員が情報提供しており、高齢者や障がい者にとって必要な暮らしの情報が上手にまとめられている。また、「津山市入退院支援ルールの手引き」は、在宅療養と入院治療が円滑に切れ目なく継続できるように作られた情報提供シートである。煩雑な入退院の手続きの中で、このシートがあるとスタッフも情報共有ができ、より良い看護・介護・医療につながる。

高齢者が自分でできる介護予防として、例えば、水分は一日1500cc、つまり湯呑み約15杯分摂取すること、どこへ行くのもペットボトルを持っていくことなど具体的にわかりやすく提示している他、高知県発祥の100歳体操「こけないからだ講座」を市内202地域で開催している。

認知症カフェは市内6ヶ所にあり、ふらっとカフェは誰でも集える場として展開している。集会所や公民館などではなく、個人のお宅を中心とした交流の場で、個人が自発的に場所を提供し、高齢者でも子育て中の方でも誰でも参加できるようになっている。行政もチラシや看板作り、声かけ等、開店時の支援をしている。

津山市が取り組む介護予防事業は具体的で取り組むことにより誰でも自然に介護予防の知識がつく、人がつながる仕組みになっている。



岡山県津山市にて

●兵庫県小野市

◆現状と取り組み

小野市の高齢化率は27.4%で、地域包括支援センターは市直営で行っている。地域包括ケアの取り組みでは、「介護予防サポーター活動支援事業」として、幅広い年齢層から登録会員を募り98名が登録している。「地域リハビリテーション活動支援事業」として、高知県発祥の「いきいき100歳体操」を取り入れており、初回と一年後に体力測定を行っている。また、初回には理学療法士の指導、6か月後には言語聴覚士の指導を行っている。

地域支援事業のうち、「地域介護予防活動支援事業」のひとつとして、「脳いきいき麻雀くらぶ（コミュニケーション麻雀と体操を組み合わせた教室）」がある。麻雀といっても、ルールをわかりやすくしており、麻雀牌は、1つ238グラムのタワシ大の大きさのものを使用する。チーム戦としているため、チームの中でコミュニケーションをとることもでき、さらに、麻雀牌も重みがあるため、牌を持って腕を曲げ伸ばしすることが運動にもなる。参加者に人気があり、去年は2教室年間各11回、年々参加者が増えている。また、「さわやか元気教室」は、老人クラブやふれあいサロン対象の出前教室で11種類メニューがあり、平成29年度は、48町で実施、延べ124回、延べ人数1754人が参加している。

また、「介護予防普及啓発事業」として、「介護予防セミナー」が各地区のコミュニティセンターで開催され、平成29年度は、6か所で実施、延べ416人が参加している。

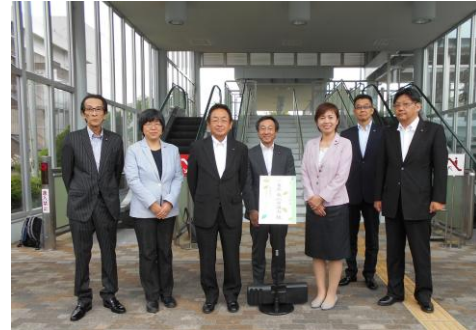
さらに、「認知症施策推進事業」では、「認知症キッズサポーター養成講座」を市内全小学校で開催している。小学4年生を対象にキャラバンメイトが行い、平成27年度事業開始以来1200名を超えるキッズサポーターが誕生している。

その他にも、「お出かけ見守りQRコードシール」を活用した高齢者見守りを行っている。小野市地域包括支援センターでは高齢者外出見守り事前登録を希望された市内在住の65歳以上、または、40～64歳で要介護認定を受けている人に「お出かけ見守りQRコードシール」を無料で10枚配布し（11枚以上は有料）、外出中の高齢者が身につけているQRコードを発見者が必要に応じてスマートフォンで読み取り、素早い身元確認や保護につながることを目的としている。模擬訓練も実施しており、シールの啓発と地域や警察等との連携を密にしている。

認知症カフェを「絆カフェ」と命名し、市内8か所で開催しており、子どもから高齢者まで、地域の人々や医療・福祉の専門職の人が、おしゃべりしながら気軽に利用できる「集いの場」となっており、認知症など介護相談や家族同士の情報交換もできる。

「生活支援体制整備事業」では、「生活支援サポーター活動支援事業」として「介護ファミリーサポート事業」を行っている。子育て支援の「ファミリーサポート事業」の形態を活用した高齢者対応のファミサポ事業で、1時間当たりの活動料金は600円である。

また協議体の設置としては、第1層協議体で「配食・訪問サービス便利帳よりそい」の発刊、平成29年度から各地域で第2層協議体の設置を展開しており、地域の実情に合った買い物バスツアー、移動販売の支援等も行っている。



兵庫県小野市にて

◆所感

津山市が目指す介護保険制度での自立支援とは、利用者が自分らしく生きる力・生きがいを自ら選択できることを基本として、利用者にとって意味がある目標の達成に向けて「自分の役割やできることを維持・継続」とともに「できそうなことをできる・している」にし、健康的な気持ちや笑顔が増すための支援と定義づけているのが良い考え方だと共感した。

小野市は、生活支援サポーターが地域で活動することにより、福祉制度や認知症等の理解を深める機会となり、サポーターが社会参加をすることで生きがいを感じ、さらには自らの介護予防にもつながっていくのは良策である。

2市で実施している認知症カフェや、体操、キッズサポーターの他、「脳いきいき麻雀くらぶ」など、良いところは亀山市流にアレンジして取り入れることも検討すると良いと感じた。

亀山市では、医療・介護の連携として「亀山ホームケアネット」をスタートさせ、市が策定した第2次亀山市地域福祉計画と連携して社会福祉協議会が「地域共生社会」の実現を目指し策定した第2次亀山市地域福祉活動計画により、地域包括ケアシステムの構築に向け動き出している。

求められているシステムの構築が、亀山市でなされていないわけではないが、細やかな配慮やネーミングの在り方等、市民目線で進めていくことにより理解を深めていくことが期待されるなど、当市に欠ける面もみえてきた。逆に、亀山市の地域包括ケアで早く取り組んだ地域医療などはそのアピールも必要と感じた。

今後、視察内容を検証しながら、改めて亀山市の取り組みの現状を分析、課題整理を行うとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けた、より効果的な取り組みについて、調査・研究を進めたい。